

平成24年度第2回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 平成25年2月13日(水) 13:00～14:15

会 場 倉敷市役所本庁舎7階 701会議室

出席者

委員 岡本委員(会長), 山崎委員(副会長), 榊原委員(監事), 山磨委員(監事) 岡野委員, 木村委員
関川委員, 三村委員

事務局

保健福祉局) 北山参事

保健福祉推進課) 月本課長補佐, 妹尾主任, 久保田副主任, 西野主事

欠席者

委員 植田委員, 三島委員

傍聴者 なし

議事内容(要旨)

(◎会長 ○委員 ■事務局)

1 開 会

委員10名中8名の出席により, 倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき, 会議が成立していることを確認し, 開会を宣言した。

新しい委員に委嘱状の交付を行い, 委員全員及び事務局が自己紹介を行った。

また, 規約に基づき, 会議の進行を岡本会長に依頼した。

2 議 事

(1) 平成24年度事業の中間報告について

■ 資料に従い説明を行った。

○ 障がい者・ボランティア国内宿泊研修事業の活動報告書の中で予算増の要望が述べられているが, 来年度以降検討する予定はあるのか。

■ この事業は現在, 委託料, 参加費と実行委員の寄附金等で事業を実施しており, 以前も予算増の要望があったが, 委員会としては「委託料は現状のまま」で承認されており, そういった経緯を踏まえて, これまでと同額・同規模で続けてもらいたいと思っている。

承認

(2) 平成24年度事業計画(案)について

■ 資料に従い説明を行った。

◎ 基金事業はあまり変動がないかもしれないが, 日常生活用具給付事業は, その時の需要で数も変わってくると思う。この申請に対して, 基金で審査は行わないのか。

■ いただいた申請の対応は, 担当課である高齢福祉課が行う。

◎ 資料を見ると, 日常生活用具給付事業では約300万円が取り崩しされているということか。

■ そうです。

承認

(3) 倉敷市地域福祉基金運営委員会助成要綱の一部改正について

- 資料に従い説明を行った。
- ◎ 助成要綱の一部改正については、前回の委員会で「育成していくという趣旨のもと、ボランティア団体の活動がどのように育っているのかを見届けることが重要ではないか」という意見があった。
- 助成事業実績報告書は毎年提出してもらおうが、それとは別に、この事業実施報告書も提出してもらおうということか。
- そうです。5会計年度は実施報告書の提出が必要となるので、助成期間中は事業実績報告書と事業実施報告書の両方を提出してもらおうことになる。この事業実施報告書では事業を実施した感想など、実際の活動の声が聞けるのではないかと考えている。
- 確認だが、この報告書はボランティア団体を「育てる」という意味で提出を依頼するのか、「育っている」と確認するために提出を依頼するのか。
- 「育っている」と確認するためです。
- 「育てる」という視点から書いていただければこの実施報告書を活かせる場もあると思うが、「育っている」と確認をする必要があるのか。この実施報告書は、1年でも助成を受けたら5年間提出しなければならないと規定されている。申請者にとって負担になるのではないか。
- 前回、委員から、「基金で助成を受けた団体がその後も引き続き活動されているという確認がしたい」という意見があった。ただ、先ほど委員が言われたとおり、負担になるだけでは意味がなく、また、「育てていく」という視点も必要であり、そのあたりも含めた考え方で進めたい。
- 同じような仕組みの事業は、市の中にたくさんある。この報告書も、もう少し前向きに捉えて仕組みを考えれば、もっと意味があるのではないかと思う。意見です。
- ◎ 現時点ではまだ考えが足りないが、今後、育てたものを継続的に支援していくことも必要かもしれないし、そういった方向に繋がっていく可能性もあるという前向きな考えのもとでの提案であった。そういう意味では、「育てる」という観点も含まれていると思う。
- ボランティアとは個人で出し合って活動しているが、行政に助けを求めるのは支援が必要だからだと思う。確かにある程度線を引かなければいけないと思うが、あまりにも格式ばった形が先行しており、本当に現場の声を吸い上げているのか疑問に思う。この制度について、もう少し確認する必要があると感じている。
- 申請の件数はどのくらいか。
- 委員のお知恵をお借りしたり、広報を行う中で、現在は十何件申請がある。
- 広報紙では「寄附金を寄せてください」とあるが、年にどのくらいいただいているのか。
- 大体、毎年十何万から二十万くらいの御寄附をいただいている。
- ◎ 実施報告書の表現を柔らかくし、もう少し書きやすくしてはどうか。表記を柔らかい表現にしたり、記入例などを示すこともひとつの方法だと思う。また、今後の活動の展開のようなものを記入してもらおうと次に繋がると思うし、私たち委員も把握しやすくなる。
- 「アンケート」という表記はどうか。
- ただ今委員からいただいたご意見のように、「事業実施アンケート」と表現を柔らかくし、例えを入れたり、今後の活動の展開などを書いてもらうように修正する。この件は会長と相談をさせていただくということよろしいか。

承認

(4) 倉敷市地域福祉基金運営委員会委託事業実施要綱の制定について

- 資料に従い説明を行った。
- 要綱の目的にある「高齢者等」という表現についてですが、この基金は、高齢者に対するボランティアを想定して始まったため、先ほどの助成要綱にしてもこのような表記になっていると想像するが、助成事業も幅広く包括しており、ここは「市民の」という表記のほうがいいのではないかと。
- ◎ この表記の仕方は、以前も話題になった。
- それでは、助成要綱も合わせて「高齢者等」という表記を「市民の」という表記に修正していいか。また、この「高齢者等」という表現は、条例・規約・助成要綱でも記されている。市民の目に触れる機会が多い要綱にあわせて運営委員会規約も一緒に改正したいと思うがどうか。
- ◎ その場合、文言が非常に大切であり、言葉の意味と内容をしっかり吟味した上で変えたほうがいい。
- この部分については、次回の運営委員会で提案してもらってはどうか。
- そのようにする。
- ◎ それでは、運営委員会規約と助成要綱・委託実施要綱の改正については、次回の運営委員会での提案とします。

承認

3 閉 会

以上により、議事を終了